



えくにレディスクリニック 院長 江國先生

# えくにレディス通信

vol.7

## 「家族のお産」を「家族でお産」

記者：今日は立ち会い分娩についてお話を伺います。実際に立ち会い分娩をされる方の割合はどのくらいでしょうか？

院長：大阪の先進的な取り組みで有名な民間病院の統計によりますと、1992年では約30%、2002年では約45%、2012年では約60%になっていきます。

記者：どの病院でも同じような割合ですか？

院長：いえ、結構な開きがあると思います。「立ち会い分娩をするためには事前に両親教室を受講すること」などの条件があれば、立ち会い分娩を希望しても不可能なケースもあります。もともと立ち会い分娩を認めていない病院、制限が厳しい病院など様々で、前述の病院に比べて低くなると思います。反対に当院では立ち会い分娩に関して特に制約は設けていないので、80%以上が立ち会い分娩になります。残りの約20%には里帰り分娩の方、また、立ち会いをする予定であったが、ご主人が間に合わなかったケースなども含まれています。

記者：立ち会い分娩というとご主人様がガウンとマスクをつけて分娩台の横で奥様の手を握っている様子をよくテレビドラマなどで見かけるのですが、みなさん、同じような光景ですか？

院長：以前、勤務していた病院では分娩台のお産だったので、大体そのような感じでした。今は畳の上でのフリースタイル分娩を行っているのも、もっと自由です。畳の上で横になっている奥さんの手を握ったり、腰をさするなど色々なサポートをご主人がされています。また、分娩の姿勢によっては後ろから抱きかかえたりすることもあります。その様子を上の子供がじっと見ていて、一緒に手を握ることもあります。

記者：立ち会いできるのはご主人様だけではないのですか？

院長：それは病院によると思います。当院はご主人をはじめ、お母さん、上の子供さんなども一緒に立ち会いをされています。

記者：子供さんの反応はいかがですか？

院長：赤ちゃんを珍しそうに眺める子供、すぐに触りにいく子供、泣き出す子供、年齢によっても様々です。

記者：立ち会い分娩で困ったことはありませんか？

院長：特に困ることはありませんが、時間が長くなるとご主人の足がしびれて立てなくなることがあります。特に外国のご主人は畳に慣れていないので、まず、立てないですね。

記者：ではメリットを教えてください。

院長：立ち会ったご家族と妊婦さんが一緒に喜びをわかちあえることは勿論のこと、何より妊婦さんが一人にならず、とても強い励ましになると思います。辛い時には一人より心を許せる人が一緒にいてくれる方が心強いですよね。陣痛で頑張る妊婦さんも同じことかと想像します。

記者：えくにレディスクリニックでは立ち会い分娩を推奨されているのですか？

院長：特にお勧めしている訳ではありません。立ち会い分娩は人に勧められたり、強制されるようなものではないと思います。妊婦さん、およびご家族が希望される場合には、なるべくその機会を提供したいと考えています。その結果、立ち会い分娩が80%以上なので、それだけ関心が高いということなのでしょうね。

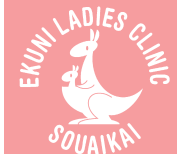
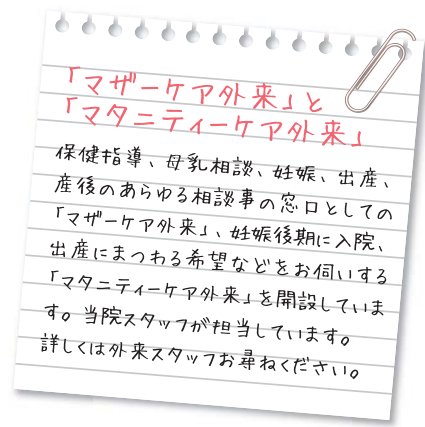
記者：今日は貴重なお話を有難うございました。



当クリニックのスタッフが一丸となって、お母さんと赤ちゃんを全力でサポートします。



京都府精華町にあるクリニック。最寄駅は近鉄京都線「新祝園駅」。



えくにレディスクリニック ☎0774-95-9168

ekuni ladies clinic  
 〒619-0238  
 京都府相楽郡精華町精華台三丁目12-2

受付時間：月～土/9:00～12:00(火・金のみ17:00～19:30も対応)

えくにレディス  検索 <http://ekuni-ladies.com/>

	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
17:00～19:30	—	○	—	—	○	—	—

診療予約：当院Dをお持ちの方はホームページから、初診の方は外来時間中にお電話でご予約下さい。

